

アイシユタインより愛を込めて

The only source of knowledge is experience.

Official Design Works

Ray





アインシュタインより愛を込めて

The only source of knowledge is experience.

Contents

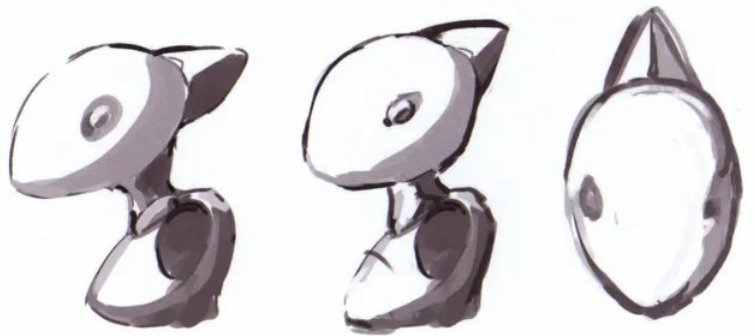
●

01	目次
02-03	企画者より(新島夕)
04-05	アートディレクターより(志水マサトシ)
06-07	有村ロミ
08-09	坂下唯々菜
10-11	新田忍
12-13	西野佳純
14	Σ(シグマ)
15	星まりす
16	片桐猛 郷田慎二
17	愛内周太
18	エトセトラ
20-21	作曲者より(水月陵・竹下智博)
22-23	「片桐部活辞めたってよ」
24	あとがき

●

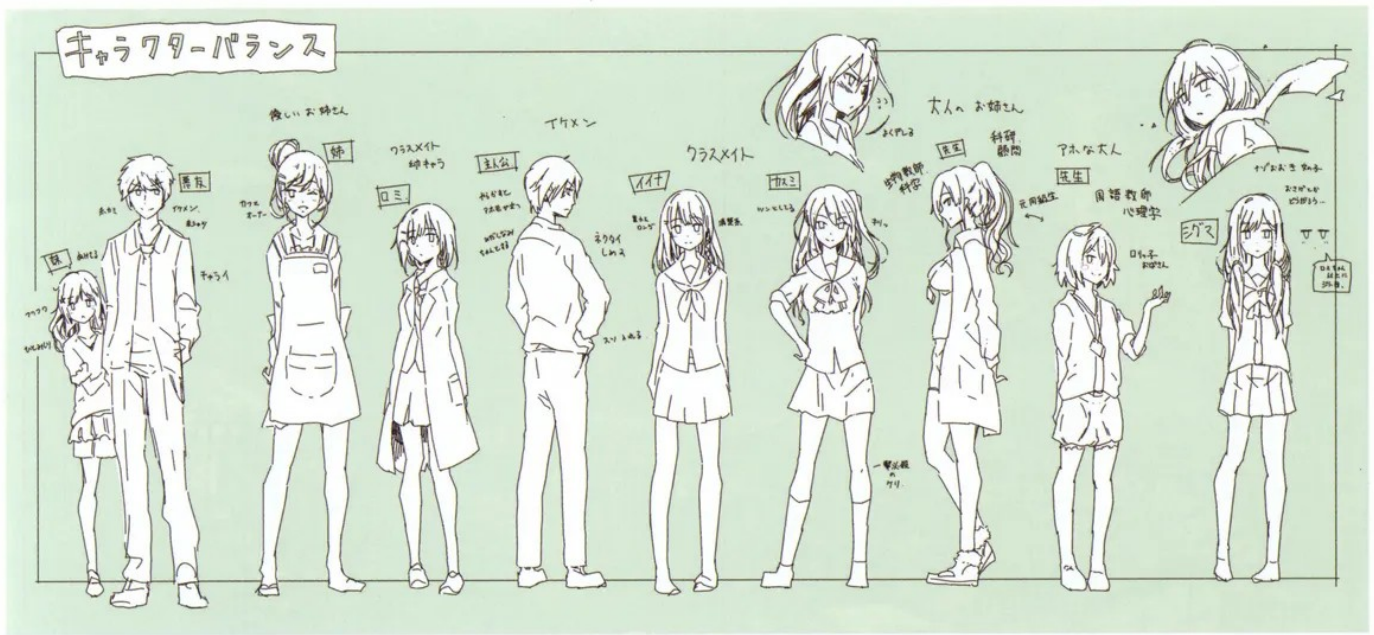


2016/11/06
有村 03
キョウキ ①



2016/11/06
有村 03
キョウキ ②





企画者(新島夕)より愛を込めて。

有村ロミの初稿をもらったフォルダ名を見たら、「201611」となっていました。

2016年11月、きみしま先生と志水先生で、東京でささやかな打ち上げをして、その際に、ひとつ企画書を持って行きました。

それでいきなりお見せしたのが、「アインシュタインより愛を込めて」と銘打たれた企画書でした。その時からタイトルはできており、変わってありません。

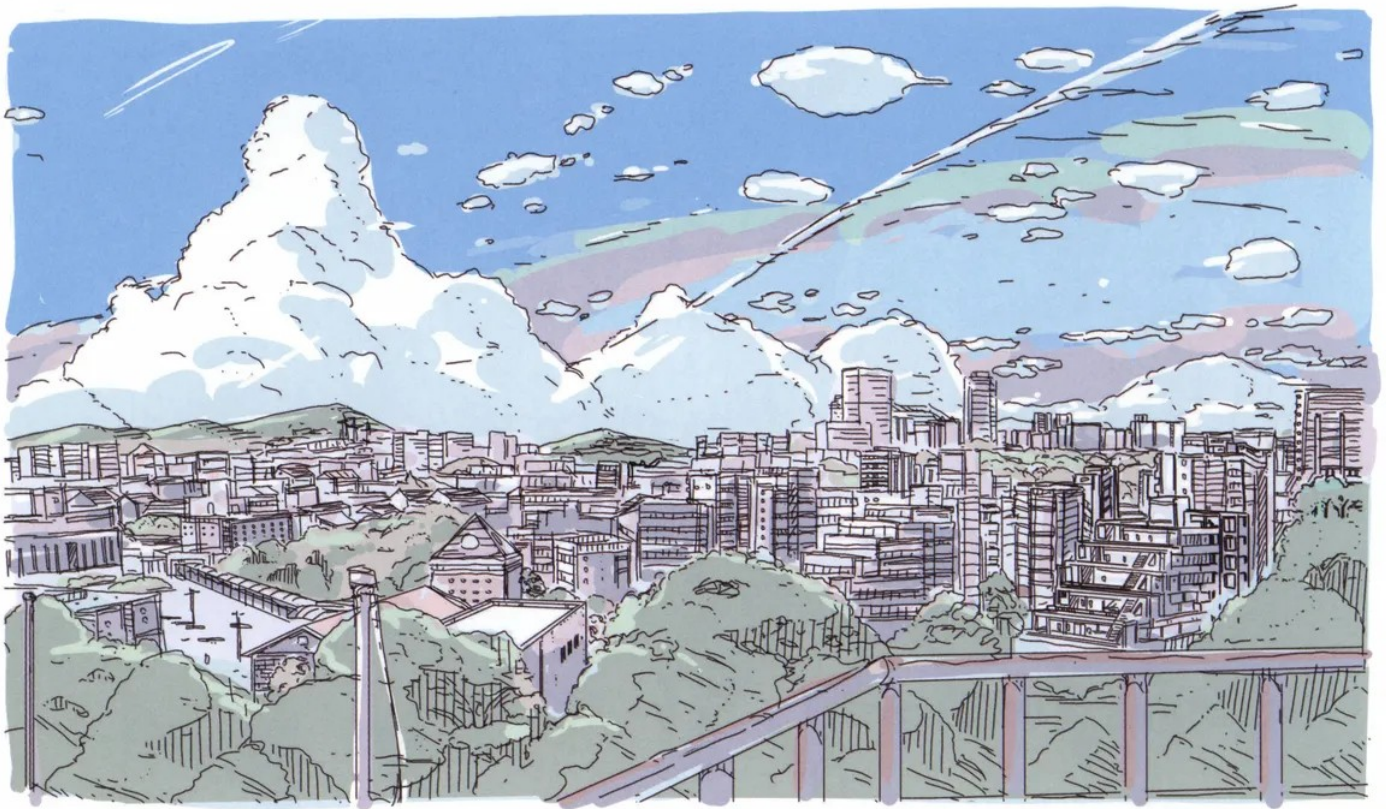
夏+少女+ロボット で作ってみたいなと言うぼんやりとしたイメージが出発点です。

難しそうな理系のショートカットの女の子というイメージはありましたが、小さめで白衣というのは、きみしま先生が盛り込んで下さったアレンジです。

そうしていただいた有村ロミのデザインを、志水先生に表紙にまとめてもらい、僕は会社さんを訪ね歩くことになります。

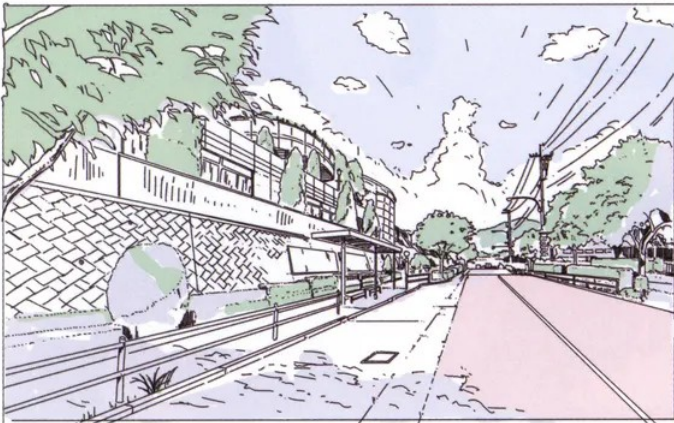
前作は文系だったので今回は理系だな……と、思っていたわけじゃなくて、途中で、ふと気がきました。文系理系だなと。じゃああとは芸術とスポーツかな、と思ったりします。ライターとしては芸術は外注でしてるから、スポーツかなあ。でもそんなの書けないな。(苦笑)

Yuu Nijima
新島夕



▼学園前バス停

▼学園前交差点



左奥に向かうとバス停前となります。

▼住宅街



・学園周辺イメージ





アートディレクター(志水マサトシ)より

本作の背景は、「志水君の自由に描いていいよ」との事で、
のびのびと描かせてもらいました。

どのような舞台でいくかは、打ち合わせの際にある程度聞きかけていたので、
自分の頭の中で完成図を描きつつ、新島さんが想定するイメージと
摺り合わせながら制作してゆきました。

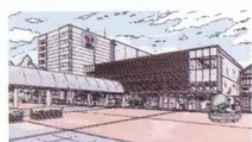
企画が動き始めてから、何度か東京と大阪で打ち合わせがあり、そんな最中、
いくつか舞台に使いそうなロケーションをピックアップすることが出来たので、
自分なりに作中に盛り込んだりしています。

その中には、新島さんやきみしまさんが慣れ親しんだ場所や、
僕自身が過去に訪れて印象に残った場所、資料を元に想像して描いた風景など。
テーマやロケーションこそ一貫性はないですが、
各スタッフが特別な思いをもっている場所を舞台に選んでいたりするので、
そんな空気感を皆さんにも伝わればいいな、なんて思います。

本作の彩色に関しては、写真資料を基にしたコンテ画(レイアウト)を制作し、
そのコンテ画に直接筆を入れて彩色していく変わった手法で制作しています。

写真色が強すぎる絵になると、どうしても光と影のコントラストや
効果等に頼りがちの絵面になってしまうので、
企画当初より「強い効果が際立つ背景はやめて欲しい」と新島さんから要望があったので
出来るだけオーソドックスな塗り表現が出来るよう、
写真資料をラフ絵に落とし込み、情報量の取捨選択をする工程を挟む事にしました。

それぞれ大変な作業でしたが、完成した背景でも有無を言わず
ゼロから塗り直しを命じるような新島さんですから、最後まで気は抜けないのです(苦笑)



有村ロミ

Arimura Romi

CV 月野きいろ



突然現れ周太から学園トップを奪う。

普段は学園に姿を現さない。

謎の多い少女。

ネットで先鋭的な論文を発表し続けている。

周太に科学特捜部を作るよう、指示をする。

*** 北牧学園 (2年生)

誕生日	9月11日
血液型	???
身長	149cm
スリーサイズ	B77・W51・H78

● 好き | _____
恐竜・飲むヨーグルト・SF小説

● 嫌い | _____
満員電車・自転車(乗れない)

≡ きみしま青(原画)

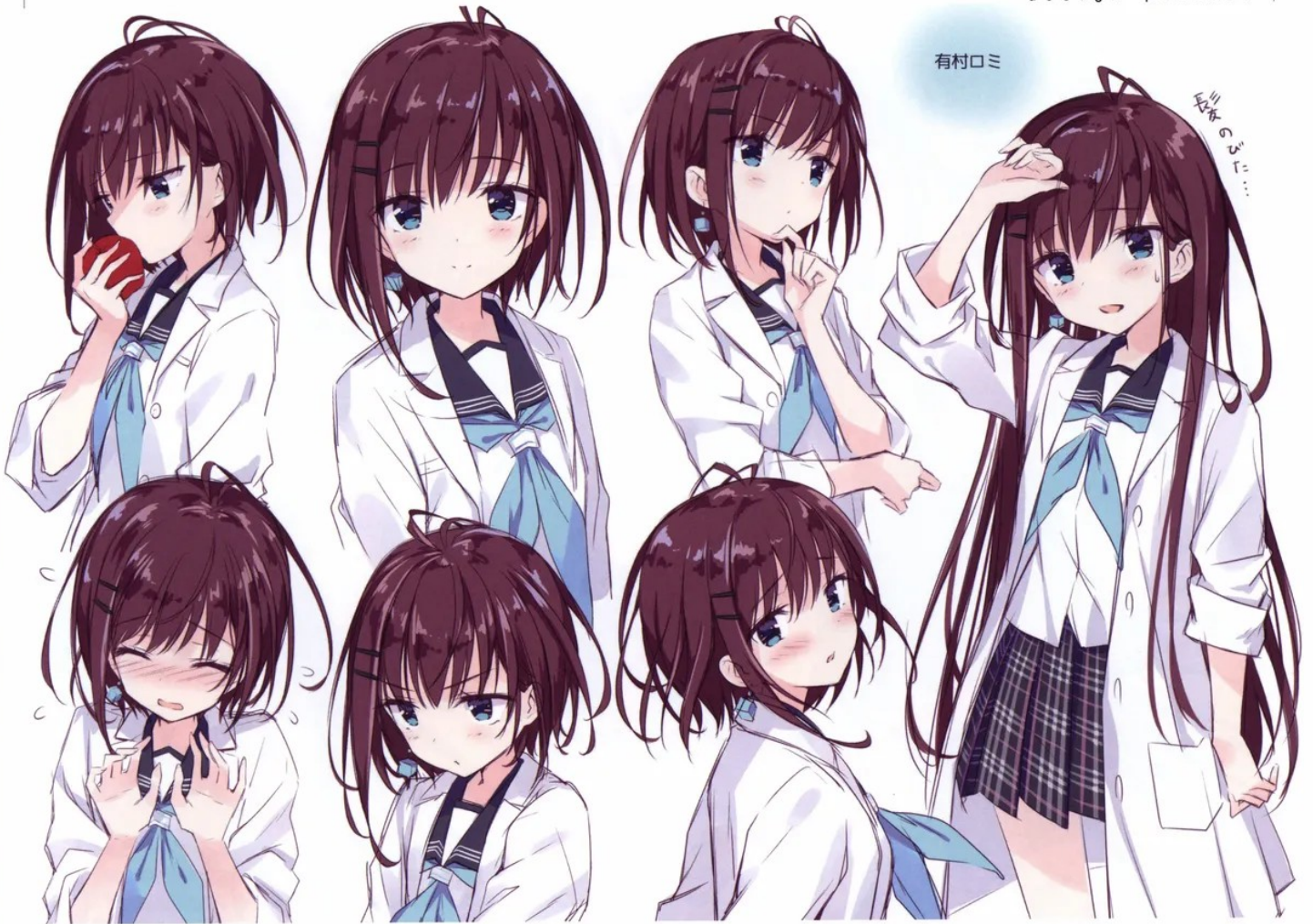
ロミちゃんは、白衣に着られるようなサイズ感だったり、女の子の子さすぎない匙加減が難しかったなあと思いつつ、産むのは一番楽だったかな。天才ロリキャラですので知的というか悟ったようなイメージがあって、透明なキューブのアクセサリはそういうイメージから来ていますね。それだけでなく、年齢相応の部分だったり、女の子としての部分といった多面性も大事に描きました。女の子っぽさは削いでるけど一人の女の子として可愛いと思って欲しいと二律背反になる、悩ましい子でした(笑)。

Face Pattern



有村ミ

有村ミ...



rough image



坂下唯々菜

Sakashita Iina

CV 桜木ひな

周太が科学特捜部に勧誘する少女。

周太いわくこれという特徴がないのが特徴。

性格は素朴で控えめ。空気を読まない周太に振り回される。

吹奏楽部に所属している。

ラーメンの食べ歩きが趣味。

*** 北牧学園 (2年生)

誕生日	6月17日
血液型	A型
身長	157cm
スリーサイズ	B83・W54・H80

● 好き	ラーメンの食べ歩き・ガルメタ (GIRLSMETAL)・バナナ・小鳥
● 嫌い	珈琲・ネズミ

≡ きみしま青 (原画)

特徴がないのが特徴になるような女の子。そんな新島さんからのリクエストから、引き算するように女の子としてのプレーンなイメージで描き上げました。海や青空といった夏の画に似合う立ち位置の子が欲しいなと思うところもあり、髪型・髪色など、透明感の出しやすいデザインに寄せました。唯々菜ちゃんのポニーテールはこのゲームの中で描きたかったピースの一つだと思っています。雑誌描き下ろしだった猫メイド姿も描くのが楽しかったですね。



Face Pattern



坂下唯々菜



rough image

新田忍

Nitta shinobui

CV 佐本二厘

マンションの一階で洋食屋を経営している。

また、隣の部屋に住んでいる。

1人暮らしの周太を気に掛けてくれるが、

周太は疎ましく思っている。

北牧学園に隣接する北牧大学に籍を置いているが、休学中。

脇が甘い。

*** 北牧大学2年(休学中)

誕生日	3月21日
血液型	O型
身長	161cm
スリーサイズ	B92・W59・H87

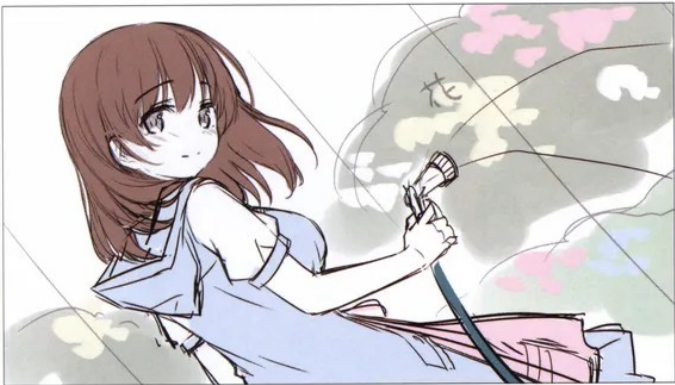
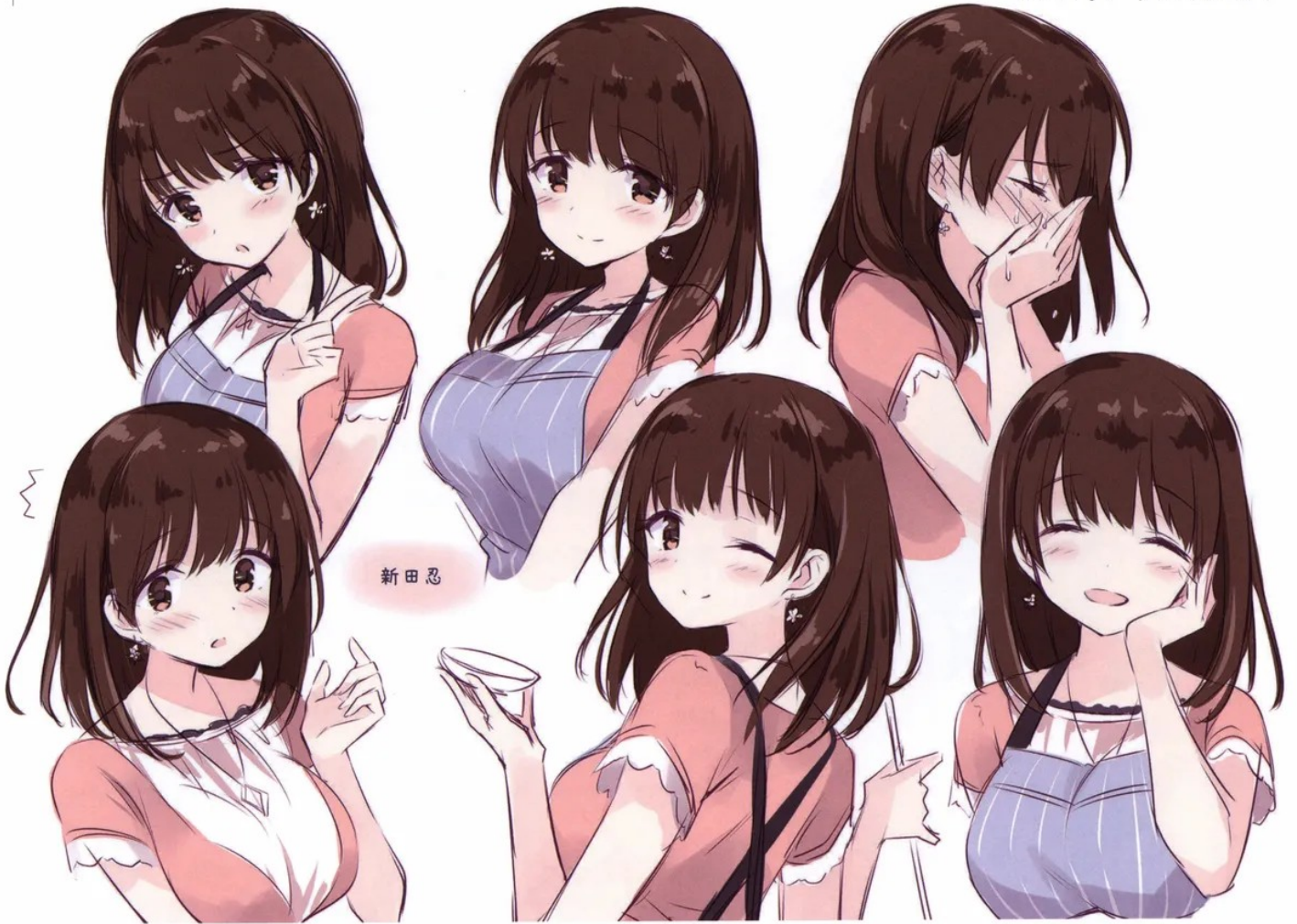
● 好き	絵本収集・高級ホテルのサイトを眺める・ホラー映画
● 嫌い	飲み会・水泳

≡ きみしま青(原画)

年上のお姉さんでありながらあどけなさを併せ持っている子です。柔らかさや女性性のパラメータがヒロインの中で一番高い…!(やっぱりおっぱい卒だし?) 実は制作初期段階でお母さんの立ち位置として描いたサブキャラの子の受けがよく、ヒロイン度を高めて昇格となったのが忍ちゃんだったりました。花柄ロングスカート姿、そして店前での暖かで寛容な笑顔が描けてよかったです。そういった柔和さの根源はそこにあるのかもかもしれません。

Face Pattern







西野佳純

Nishino Kasumi

CV 風音

ボクシング部唯一の部員であり、

大学のクラブにまじってトレーニングに明け暮れている。

ある事情により科学特捜部に勧誘することとなる。

周太とは正反対の、快活で社交的な少女。

理屈屋な周太を当初心良くは思わない。

勉強は苦手。食べるの大好き。好物は牛丼。

*** 北牧学園 (2年生)

誕生日	11月1日
血液型	O型
身長	159cm
スリーサイズ	B89・W55・H83

● 好き	牛丼・スポーツ・UF0キャッチャー・深夜アニメ
● 嫌い	辛いもの・勉強

≡ きみしま青 (原画)

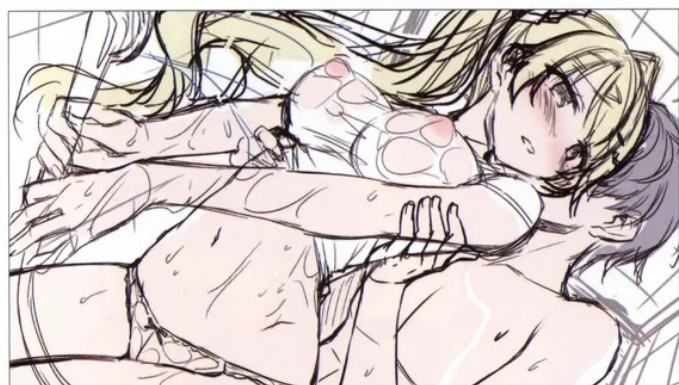
おしゃれキャラなものもあり、装飾多めに着こなした制服姿、ウェーブした金髪などでビジュアル華やかにまとめました。アクティブというか、エネルギーのある子を描くのは結構難しいですね。なかなかデザインするのに苦戦した覚えがあります。白い歯を見せた気さくな笑顔だったり、ウィンク、舌出し、それからギャルっぽいポーズ(?)とか。佳純ちゃんだけではないのですが、彼女たちのそんなひとかけらひとかけらが印象に残ればいいな、と思って描きました。



Face Pattern



西野佳純



rough image



Σ(シグマ)

Shigma

CV 北大路ゆき

周太の前に現れる謎の少女。

『彗星の使い』を名乗る。

身長 151cm

● 好き

カレーうどん・細い足場

● 嫌い

優柔不断な殿方

Face Pattern



design picture

星まりす

Hoshi Maris

CV 佐久間春奈



切れ長な瞳が印象的な、女子生徒。

周太に負けない優等生。

身長 159cm

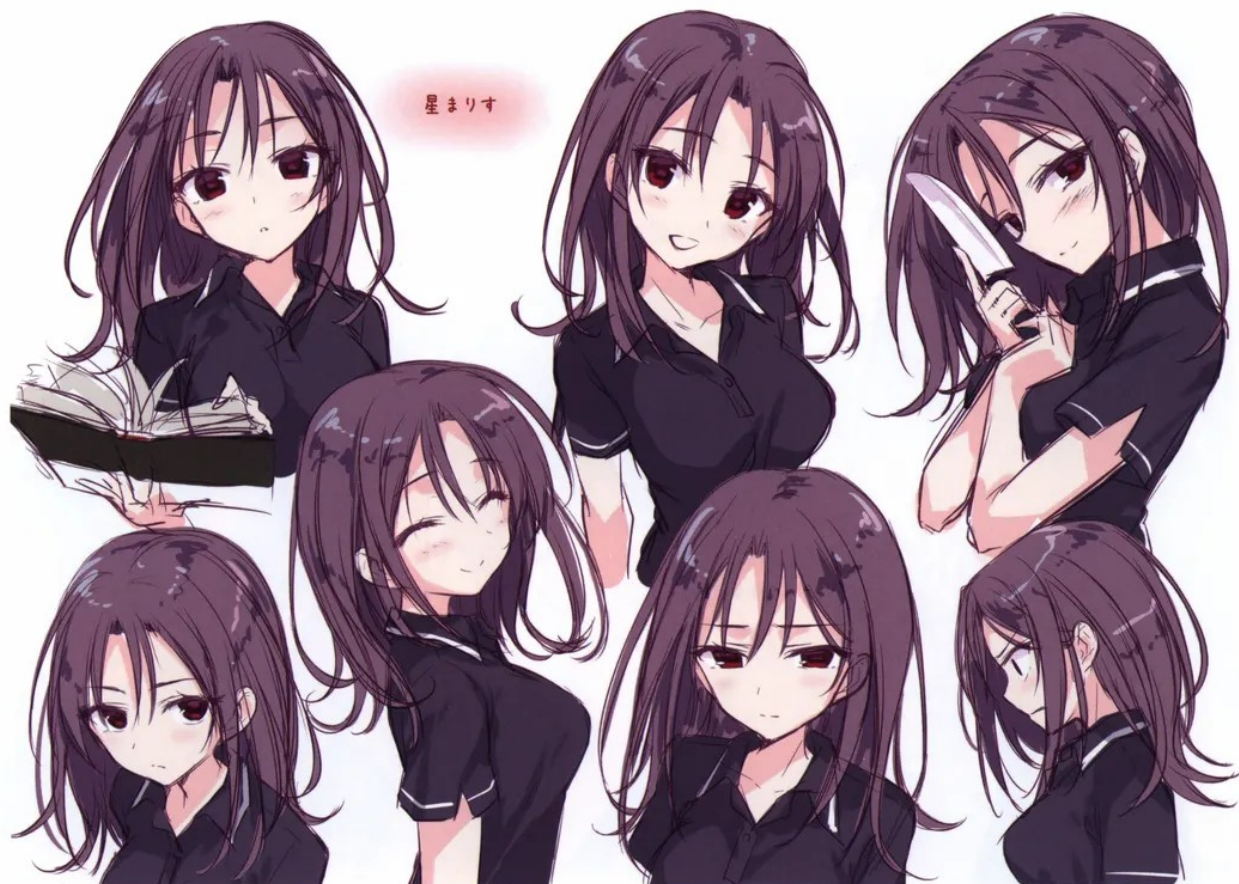
● 好き

長くて無意味な考察

● 嫌い

断定口調の男

Face Pattern



design picture



片桐猛

Katagiri Mo

CV 歩サラ

頭が良くなりたいので科学特捜部に入りたいと、
やって来るとぼけたクラスメート。

身長 155cm

- 好き | _____
アニメ・エロゲ・漫画
- 嫌い | _____
深い話

Face Pattern



郷田慎二

goda shinji

CV 朝野ヒカリ

北牧病院に勤める医者であり、周太の叔父。

両親のいない周太の保護者として、

なにかと相談にのってくれている。

身長 174cm

- 好き | _____
中華料理・激辛料理
- 嫌い | _____
理不尽な運命

Face Pattern



愛内周太

Aiuchi Syuta



北牧学園2年生

毎回試験ではトップの秀才だが、

ひねくれており友人はいない。独り暮らし。

*** 北牧学園(2年生)

誕生日 10月30日

血液型 AB型

● 好き |
鯖定食・沈黙考・鉄道

● 嫌い |
文系っぽい会話

Face Pattern |



愛内周太



design picture

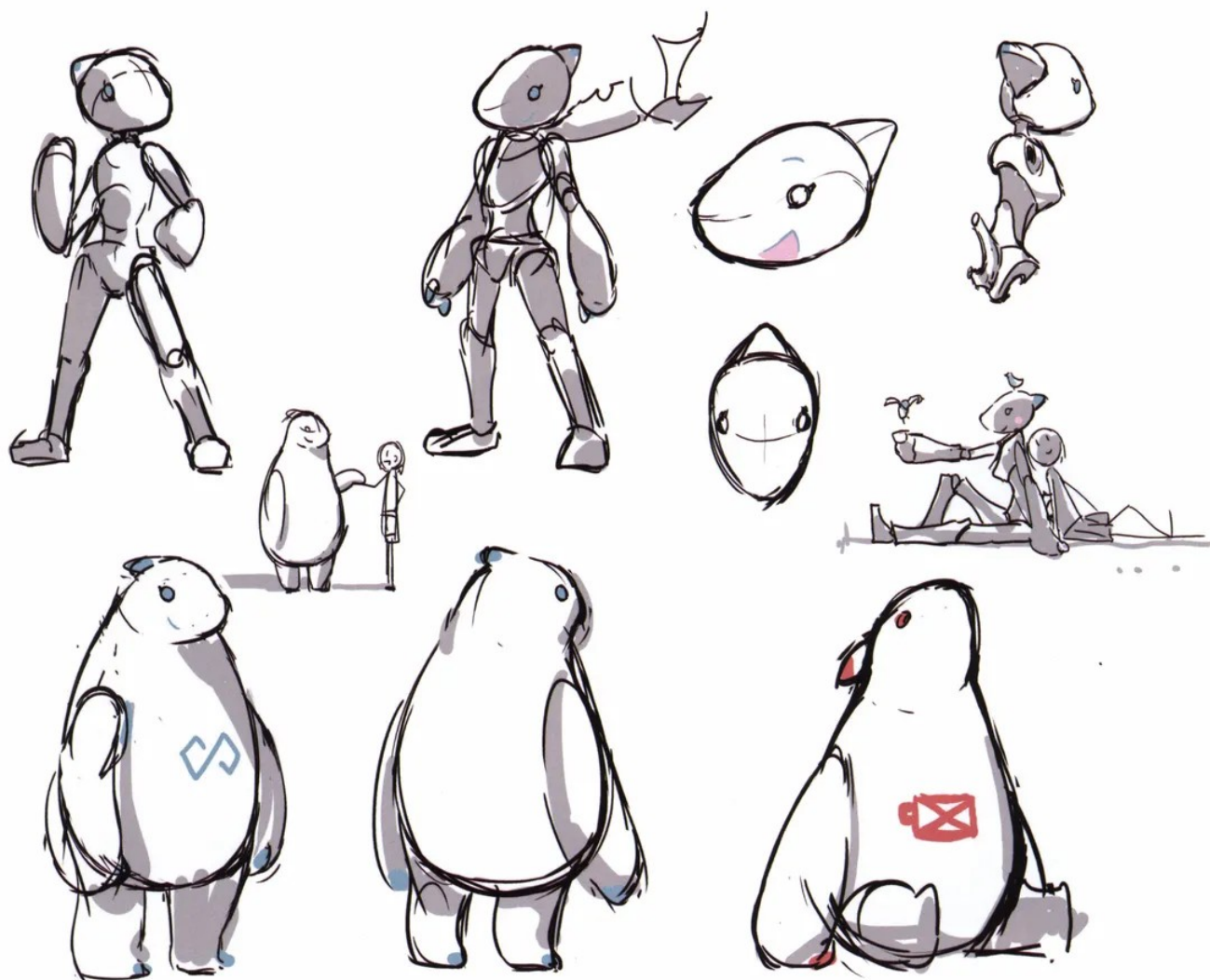
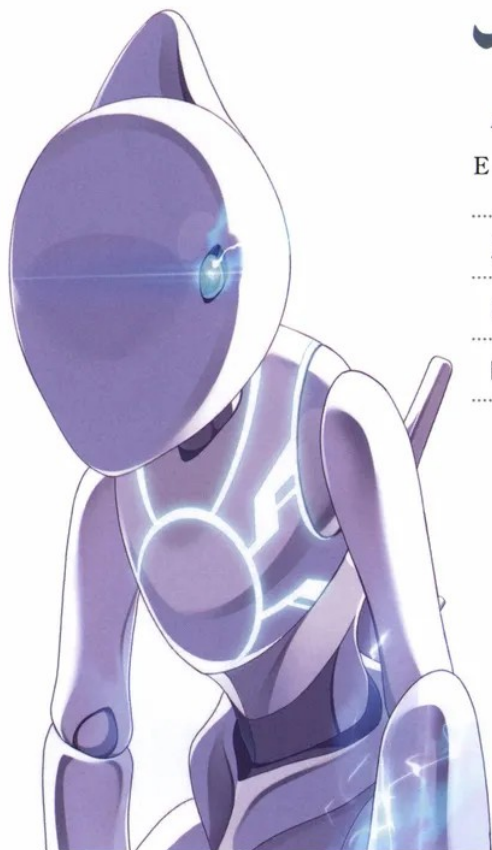
アインシュタイン

E i n s t e i n

周太の部屋の隅っこに置かれているロボット。

たまに周太の独り言に付き合わされている。

暇つぶしに意味も無く分解されることもある。



没キャラクターギャラリー



愛内萌芽

愛内萌芽

主人公の偽りの妹として設定されたキャラクター。収集がつかなくなるのでカットされたが、とあるキャラとして存在はしています。この姿、名前で出てくるかは分かりませんが、何かの機会があれば出てくる？



伊豆島清治

伊豆島清治

いわゆるバカ会話する友人キャラ。あまりに男友人キャラ過ぎるので抹消された。柴田辺りに転生しているかもしれない。



アインシュタインの原型

可愛すぎてポロボロにできないので没。

水月陵 LinerNotes

● for outside (向こう側へ)

メインテーマという事で指定なしで制作させていただきました。イラストであったり背景絵であったり新島さんの作品に対する思いであったり、何かしらのきっかけで感性を揺さぶられて自分の元にメロディが降りてくるそんな幸せな作り方をさせて頂いた一曲です。

Gの音から始まるのは私の中の空のイメージがGだからなのですがそこからストーリーへの期待や想像・馳せる想いが広がり、膨らんでゆく____クリア後、攻略中、色んな視点から聴いて頂けたらとても嬉しいです。オーケストラのコンサートで最初にするチューニングのような雰囲気が入っています。

● sigh in mouth (ため息をほおぼって)

「ネガティブだけど重苦しいわけではない、小難しいことを考えていて部屋でも外でも一人でブツブツ言ってる」というイメージ…

難しい!というのが最初の印象でした(笑)。不思議と出来上がるとこれ以外なかったなと思っています。彼の一人の空間を、最初から鳴っている効果音ばいカッカカッという音で表してみました。鳴らない時はちょっと他に視野が向いている時、鳴ったら自分の中であれこれ思い巡らしてる時みたいな感じで、楽しんでいただけたら!

● someone like someone or not (誰を好きとか嫌いとか)

併設の大学と施設を共用しているということで学園の雰囲気も高校生というよりは大学のキャンパスぽくなるよう考えて作りました。自分の通った大学のことを思い浮かべたりしていたら、背景絵に凄く似てるのがあって勝手にテンションあがってそのお陰でとてもイメージが沸きました。モダンで、少し自由さもあるような感じに聞こえていたら嬉しいです。

● I love sabateisyoku (アイラブ鯖定食)

どこまでテンションを上げていいのかとても悩んで凄く後の方で制作した曲です。主人公の若干ネガティブなところが仲間と行動することでプラスにもってかれる引力みたいなものが曲の中にあつたらんと、リズムもシャッフルさせてみました。楽しい時間になっていたらいいなあ。

● no thank you (ノーサンキュー)

ゲーム中に思わず「ぶwww」ってなるノリが好きなので、そうなっただけで思っただけで作りました。もーちゃんのテーマというべきでしょうか!(笑) ほのほのして、ちょっと笑えて、ちょwwwみたいな、そんな感じが伝わるというなー!

● No one knows (誰も知らない)

この曲になる前に実は別パターンのを作っていてそっちは心の痛みと、なんでうまくいかないんだという気持ちに寄せてしまったので、思い直して作ったのがこの曲です。

哀しみではなくて、なんか空をぼーっと見ながら、あーあ…っていう感じ。ただ風に吹かれてベンチに座って、時間が静かに流れていったり。思い返せばそんな時間もなんだか青春で、貴重な時間の中で生きてるって感じがします。

● 13 Mysterious origin (それはどこから来るんだろう)

人間に人間が惹かれる瞬間ってほんとに何気ない一言だったり、その人の考え方が見えた時だったりつくろわれない、素の心が見えた時だったりしますよね。この曲作りながら、今まで出会った大好きな人たちのことを思い返していました。

どんな出会いも「ああ、凄くいい瞬間だったなあ」って。

ヒロインの女の子たちの目線で見た主人公の、どこかに惹かれた瞬間が、表現出来ていたら嬉しいな。大切に大切にメロディを紡いだ曲で、自分の中でもとても気に入っています。

● starry sky (星空より)

謎の象徴。これもやっぱり神秘的な曲なんですよ。思い出したのは子供の頃に見た映画「シリウスの伝説」。宇宙に対する私の神秘的な気持ちの原点はこれだったかとも思い出していました。

「銀河鉄道999」も私の人生を変えましたが、それとは違うもので私の中でのどつもなく大きくて深い、謎の象徴。後半のフレーズがとても気に入っています。

● abyss (深海より)

この曲のために、ほんとにほんとに何度もシナリオを読み返しました。一番の謎、神秘的な果てのようなものということでこれだけは絶対深く読まないと思っていました。このコメントが読まれるのがプレイ後だったらいいな。

情報体というワード、出会うシチュエーション、全てをこの曲に詰込みました。細かなデジタル的な音の重なりと、冒頭の鯨の鳴き声をイメージしたフレーズが気に入っています。

● end & beginning (終わりの時代 始まりの時代)

夏を思い浮かべて、なつかしさを浮かべて書きました。思い出したくないような事もある中で、振り返ると少し口角の上がるような大好きだった時間。なんだかむしようにアレンジでどんどん弦が増えていく壮大な曲に仕上がってしまった曲でしたw

ノスタルジーで、少し甘酸っぱくて、暖かい光景が浮かぶようなそんな気持ちになっていただけたら嬉しいです。

● You are mystery (君の気持ちが分からない)

夜の曲を作っていた時に、主人公の生活のことを想像しすぎて涙が出てきたんですよ。結論を既に読んでしまっていたからだと思うのですが結局はここへ、最後にはここへ戻ってくるって切なさがあったらなくて自分の時間へ還ってくる全てのことが重なって涙が止まらない自分を止められなかった。

だから「夜」の曲はエンディングだって思いました。彼の日常の集大成。大切なもので出来ていた、彼の人生だと。

竹下智博 Production Story

● 主題歌「新世界のα」について

「新世界のα」は僕の制作した曲が入ったコンピレーションアルバム、「World Hitchhiker!2」の書下ろし曲として誕生しました。

作詞を新島さんをお願いする事は僕の中で決まっています、それこそゲームの主題歌のようなストーリー性のある歌詞が欲しいと思ったのです。

ゲームを作るようにシナリオをイメージしてその主題歌の発注をしてください、というややこしいお願いをさせて頂きました。

そしてワクワクしながらご連絡お待ちして、提案された架空のゲーム「新世界のα(仮)」。

1つの恋が日常を神話にかえてしまう…的な内容で、すでにこのゲームがめっちゃ面白そうなの気がする!

曲のデモは上記を元に制作しましたが、アレンジ、歌詞は「アインシュタインより愛を込めて」用に作った…って言ってしまっているんじゃないでしょうか。

この文がここに載っているなら大丈夫なんでしょう、なんだかんだ僕も最初から主題歌になること期待しちゃってました。

曲自体の展開は多めで、1番終わりの間奏なんかちょっと一呼吸からの閑話休題といったイメージでシーンを変えていたり。

一曲でそのストーリーを表現したいなと思っていたので歌詞に合わせて緩急、抑揚をしっかりと付けた曲に仕上げました。

アウトロが無いのは歌詞に合わせてごちゃごちゃ展開するよりもそこでバン!と終わって終幕!としたらカッコいいとあえて無しにしています。

また一番のこだわりポイントはラスサビの「街角に立ち尽くしながら〜」の裏でストリングスがサビのメロディを弾いているんです。

物語のエンディングで一番最初にあったエピソードが伏線が出てくるっていいですね、そんなイメージで最後の最後に入れてみえています。

そうして出来上がった「新世界のα」、シナリオを知った上で聴くとさらに色々な所でグッとくる仕上がりになっているのではないのでしょうか。

僕にとっても非常に思い入れのある曲でしたが、改めてほんとに主題歌になっちゃった!という最高の形で、多くの人に聴いて貰えることがとっても嬉しい今日この頃です。

しかしPCゲームのOPフル音源が3年前にすでにあるって割と前代未聞なのは(笑)

● 「アインシュタインより愛を込めて」4つのボーカルソング

今回のボーカルソングについて思う事、それはとにかく熱い!!です。

歌の熱量もさることながら、流れるシーンをイメージして作った曲なのでこうなってしまうのも必然といわざるを得ない。

歌って頂いた歌手様にはより感情を込められるように色々シナリオを説明したりと、その辺りも大事に進めました。

特に「Answer」1番のAメロは伴奏も含め科学者っぽさや悩み、数式を描いてるイメージを表現できたのではと思っています。

あと全曲ですが、歌でこだわったのは息を吸う、プレスもですね。

人によってはカットしてしまうとかもあるんですけど、息を吸うってめっちゃ大事じゃないですか。

それを捨ててしまうなんてとんでもない。

全曲任せて頂いた事もあり折角なのでそれぞれ少し繋がりがあるように作って見えています。

それは実はちょっと似てるメロディだったり、構成だったり、またエフェクトだったりするので聴いても分からないかもしれない部分だったり。

例えば「新世界のα」と「Answer」についてはサビに向かうまでの構成を雰囲気は違うものの近い展開にしています。

「願星」のAメロにもちょっとだけ「新世界のα」のメロとリンクさせている部分があります。

全部いっちゃおうと面白くないのでひっそり繋がりを探してみるのもオススメです。

● 今までとこれから

ビジュアルアーツを退社し、Peak A Soul+に所属して現在活動しているわけですが、退社後新島さんから一番最初に「アインシュタインより愛を込めて」のご依頼頂きました。

今作はこれからの自分が作家人生を歩むにあたってとても大事な作品になると思っています。

また今後作品を作る姿勢については今まで変わらず全力で駆け抜けるつもりですが、退社した事によりやる事が出来る幅も広がったと思うのでより一層音楽に向き合っていきたいと思っています。

ただ、とにかく自分が一人だけがむしゃらに頑張る!という過去の自分より、周太君のようにきつと見守ってくれてる誰かがいるから今も頑張っているのかもしれない。

というわけでこんな所まで読んでくれた皆さんに、心から愛を込めて、ありがとうございました!

それでも学園生活の圧倒的大部分をしめる教室での生活を一人で過ごさなければいけないことに変わりはない。

このままじゃあ、僕はつぶれてしまう。

学園を辞めよう。

幸いにも僕の姉は美容師として店をもっていた。

しばらくは美容師見習いのような感じでお小遣いを稼ぎながら暮らすのはどうだろう。

ゆくゆくは美容師を目指したっていいだろう。さほど興味はないけど。まあ、そんなものを目指してうちに、何か良い物も見つかるといい。

そうして姉に相談した結果が冒頭のつれない返事だった。

姉の協力が得られない以上親を説得するのも難しい。当面僕は学園生活を続けるしかなかった。

ぼっちになると同じくぼっちな人のことが気になるものだ。

クラスに明かなぼっちは僕以外に1人しかいなかった。

優等生の、愛内君。ちょっとした有名人だった。

試験では毎回一位で廊下には彼の名前が一番上に燦然と輝いているらしい。僕はそんな張り紙見に行かないけど。

あれだけ頭が良ければぼっちだろうが惨めさもなかった。

本人もそんなもの感じてないだろう。いつもつまらなそうに授業を受けて、いつの間にか早退してたりする。そんな態度に教師も何も言えない。ぼっちというよりは、優秀さゆえの孤独だった。

僕ときたら頭も悪いうえに、ぼっちなんて……はあ……。

せめて勉強ぐらいががんばろうかな。頭がよくなれば、人の気持ち分かるようになるんだろうか？

陰口を叩かれないように、女子とも男子とも楽しく話すバランスが分かるだろうか？

そんなある日のことだ。

当の愛内君に大きな変化が起こった。なにやら彼が率先してまわりを声をかけはじめたのだ。

愛内君は明らかに緊張気味に、クラスメートに声をかけているようだった。

そうしてぼつや断られて、席に戻っていく。それを何度か繰り返した。

愛内君は机に座り、何かむっつりと難しい顔で考えているようだった。

なんでだろう。人の気持ちに分からないと言われた僕なのに、今の彼の気持ちは分かるような気がした。

例えば、彼が僕に話しかけてきたら僕はどうするだろう。

「こ、困るよそんな……」

僕は勝手に妄想して、勝手に困ったりしていた。

でも本当に困る。僕は彼みたいなタイプが苦手なんだ。

僕は昔から勉強ができなかった。お決まりだけど、分数の計算に入る辺りでつまづいて……つまづいたまま今にいたる。いやさすがに単純な分数ならできるけど、できたと思ったら方程式でつまづき、関数でつまづき……化学記号でつまづき。怪我だらけの成績になってしまった。

確か班単位でテストを競い合うみたいなの迷惑な授業があって、同じ班の優等生が僕の面倒を見ることになったんだ。そうしていくから教えても理解しない僕に彼は辛辣だった。

「バカじゃないのか」「ありえない」「病院行け」

散々なことを言われた。

あれのせいで勉強ができる優等生という人が、僕はどうも苦手だった。愛内君にしたってしゃべったことはないけど、明らかに僕が苦手とするタイプだろう。

苦手と言いながら僕は毎朝登校するたびに掲示板上に貼られた科学特

搜部の広告を眺めるようになっていた。

どうやら愛内君は必死に部員を集めているらしい。

そして彼の様子を見る限り、まったく集まっていけないらしい。

もしも僕が入りたいと言ったら、どうなるのかな。

なにせ真理を探究するクラブだ。僕みたいなバカが入ろうとしても、迷惑かもしれない。

入りたいと言って、露骨に嫌そうな顔をされたら……

僕は忘れはしない。

よそよそしくなっていく友達のグループに、それでも勇気をもって

声をかけた。

「一緒にランチしようぜ」

その時の皆の居心地の悪そうな表情を。何かを確かめ合うような目配せを。

そして静かに去って行く背中を。

取り残された僕を俯瞰しながら眺めている僕を。

僕には無理だった。もう一生無理かもしれない。

誰かに自分を受け入れて欲しいと頼むことなんて、できないかもしれない。

「一緒に遊ぼう」

子供の頃、あんなに迷いなく言えた言葉をもつ僕には誰にも言える気がしない。

思考はどんどんネガティブになっていく。

机に座って俯きながら、僕はほとんど泣く寸前までいっていた。

ああそうか。僕はこんなに傷ついていたのか。

そうして愛内君もきつと傷ついている。

愛内君は1人で机に座っている。

誰かに声をかけるのも諦めたように見える。

表情こそボーカールフェイスだけど、内心はひどく傷ついているのが分かった。

きつと、僕だけが、今それを分かっていた。

僕はバカだけど。人の気持ちに分からないわけじゃない。

分からないのは、お前達じゃないか。

こびてるどか。変な奴どか。

お前達こそ、人の気持ちに分からない。

もしも僕の申し出が断られても……僕が傷つくことがあっても、

愛内君が傷つくことなんてないよね。

僕は……僕は席を立て、愛内君のもとへ歩いていく。

「あの。掲示板的の貼り紙見たんだけど……」

愛内君は呆然と僕を見返す。

そうしておすおすと、妙に不器用そうに微笑んだ。

完

『片桐部活辞めたってよ』

文✱新島夕 イラスト✱きみしま青



「あんたって人の気持ちが分からないんじゃないの」

5つ上の姉はひとしきり話を聞き終えた後、そんな風に結論つけた。

「人の気持ち？ そんなもの誰が分かるって言うの。分かるって言う人間がいたらうさくさいよ」

「そんな屁理屈を……」

僕の言葉に姉は深くため息を吐いた。

「昔からあんたって1人空気が読めなくて空回ってるでしょう。たまの親戚の集まりじゃ1人で携帯ゲームして注意されたり。エロゲがどうとか大声でしゃべって周りをぎょっとさせたり。そういうの棚に上げて、全部周りと運が悪かったみたいに見えるけど。元凶があんた自身だとしたらだよ、学園をやめたって、どこいったって、根本的になおさないと最後は人生やめることになるんじゃないの」

ずばずばという姉の言葉に僕はひるんだ。僕はただ、元気づけて欲しかったのに。こんな物言いつてある？

「ひ、ひどすぎる。可愛い妹に言う言葉が、うわーん」

学園に友達がいらない。

正確には5月頃までは友達らしき子たちは数人いたけれど、いつの間にか距離ができていた。

ある時期から彼女達はろくに僕に対してよそよそしくするようになり、

しばらくは気のせいで済ませていた鈍感な僕も、影で「うざい」と言われているのを聞いて、さすがに彼女達に話しかけることを諦めた。

どうしてこうなったんだっけ？

思い当たることはある。男子と話が合うことが多くて、ついつい少年漫画のこととか、ゲームのこととか話し込んでしまった。

「こびてるよねー」

ある日、僕についてのそんな陰口を耳にした。

僕がこびっている？

何を言ってるのやら。少年ジャンピングとか、ゲームの話をしている

だけだよ。これのなにか、こびてることになるんだよ。と思っていたら……。

「お前のこと、好きなんだ」

ただただ趣味のバカ話をしていたつもりだった男友達から、告白された。光の速さで断った

そうしてやっと女子が話していた陰口の意味が分かった。

こびてる、か。そんなつもりはなくても、結果的にそうなったのかな。

いろいろ悩んだあげく、セミロングだった髪を切ってみた。思いつきり短くしてみた。

もともと僕なんて一人称を使う上に、髪の毛の長さもその辺の男子と変わらないぐらいになった。

とっても中性的だ。これなら、どこをどう見てもこびていない。

そのはずなんだけど……なんだか女子はいつそう僕から距離をとるようになった。

「変な奴」

今度はそんな陰口を耳にすることになる。

ああだめだ。僕にはどうしたらいいかわからない。

分からないまま、僕は学園生活を1人で過ごすようになった。

クラスでのぼっちというのは不思議とクラブ活動にまで波及するものだ。

女子のネットワークは張り巡らされており、一カ所で排斥されれば指令は各所に伝わり、実行させる。

片桐猛はぼっちだ。はぐれ。と、誰かが指令を下しているんだ。

そして僕はクラブを辞めた。担任は特に引き留めなかった。

「片桐部活辞めたってや」

あとがき

このたびは「アインシュタインより愛を込めて」
豪華版をお求めいただきありがとうございます。

本作の開発は数年にわたり、
紆余曲折がありましたがこうして、
お届け出来てほっとしております。

特典冊子「Ray」では、
その数年の足跡をなんとなく、
感じ取っていただけたら幸いです。

またこういった形でお会いできる時がくるのを、
楽しみにしております。

2020秋 GLOVETY一同





アインシュタインより愛を込めて

The only source of knowledge is experience.